第 17 回日本在宅医学会もりおか大会　**一般・指定演題**

（実践報告）抄録用紙

演題名 （全角 80 字以内）	重度の心身障害がある患者の家族旅行 福岡から大阪 USJ への 1 泊 2 日を支援して
演者名	熊谷　由希子、岩野　歩　、齋藤　学、　平部　俊哉、　坂口　聡子 林　　裕子
所属	コールメディカルクリニック福岡

【はじめに】当クリニックは「生きるに寄り添う」という理念をもとに訪問診療を行っている。今回、22 歳になる重度心身障害者の母親より「これが最後になるかもしれないので思い出のある USJ にもう一度旅行をしたい」という希望に添い旅行支援を行ったので報告する。【目的】旅行等イベントの支援に必要な準備、対策を検討する。【経過】事例紹介:22 歳、男性。脳性麻痺。胃ろう造設後、喉頭気管分離術後。ADL は全介助でリクライニング車椅子を使用。笑うなどの感情表現はあるがコミュニケーションは困難。痙性が強い。無呼吸出現のため人工呼吸器の装着を検討中。参加者:本人・母親・姉・訪問看護スタッフ 2 名、クリニック医師 1 名、看護師 1 名の計 7 名。旅行前準備:急変時に備え、人工呼吸器を準備し使用した場合の設定・必要物品の検討をした。下見:リクライニング車椅子での移動に関わる環境サポート体制、ケアを行う場所、USJ 内の環境等確認をした。打ち合わせ:参加者による打ち合わせにてスケジュール、必要物品、役割分担等行った。母親とは頻回に連絡を取りあい細かい部分を打ち合わせた。実際:新幹線にて新大阪駅、福祉タクシーにて USJ に到着。パレード見物、シアタータイプ、ライドタイプのアトラクションを体験。途中体調の変化もなく人工呼吸器の使用もなかった。【結果・考察】体調を崩すことなく、予想以上のアトラクションを経験でき本人の笑顔もみることができた。また、医師の同行が母親の安心感につながった。事前の準備を十分に行うことで、重度心身障害者であっても、旅行が可能である。また本人と日頃介護に携わる家族が地域と関わりあう機会にもなる。今後もその機会を増やし、地域と共に「生きる」に寄り添っていきたいと考える。